

# 埼玉県四半期経営動向調査結果の概要

(平成16年1～3月期の県内中小企業の経営概況)

## I アンケート調査結果の概況

### 1 経営者の景況感と今後の景気見通し

#### (1) 経営者の景況感

今の景気水準について「好況である」と回答した企業は4.5%、「不況である」と回答した企業は63.0%で、景況感のDIは▲58.5となった。前期と比較すると7.4ポイントの上昇となり、厳しい水準ながら5期連続で改善し、平成12年7～9月期の▲62.2を超えて平成12年4～6月期調査以降で最も高い水準となった。

製造業のDI値は▲47.5で、前期と比較して7.1ポイント上昇し、厳しい水準ながら5期連続で改善した。非製造業のDI値は▲64.4で、前期と比較して7.5ポイント上昇し、厳しい水準ながら5期連続で改善した。

#### (2) 今後の景気見通し

全体をみると「悪い方向に向かう」と回答した企業は19.3%、「どちらともいえない」とした企業は67.9%あり、依然として先行き不透明感が強いながら、「良い方向に向かう」と回答した企業は12.8%となり、前期の8.0%に比べ4.8ポイント改善した。

製造業では「良い方向に向かう」と回答した企業は15.5%となり、14.6%となった「悪い方向に向かう」と回答した企業を上回った。製造業で「良い方向に向かう」とした企業が「悪い方向に向かう」とした企業を上回ったのは、平成12年7～9月期以来である。非製造業では「良い方向に向かう」と回答した企業は11.3%あり、14.1%だった平成12年7～9月期以来の二桁の水準となった。

### 2 売上げについて

#### (1) 当期の状況

前期と比べて売上げは「増えた」と回答した企業は21.3%、「減った」と回答した企業は39.2%で、売上げのDIは▲17.9となった。前期と比較すると7.1ポイントの下降となり、1年ぶりに悪化した。前年同期と比べると16.8ポイント上回っており、7期連続で前年同期を上回った。

製造業のDI値は▲14.8で、前期と比べ15.7ポイント下降したが、前年同期と比べると12.5ポイント上回った。非製造業のDI値は▲19.6で、前期と比べて2.4ポイント下降したが、前年同期と比べると19.0ポイント上回った。

#### (2) 来期の状況

当期と比べて売上げが「増える」見通しの企業は25.4%、「減る」見通しの企業は31.5%で、来期のDIは▲6.1と見込まれている。当期と比較すると11.8ポイントの上昇となり、2期ぶりの改善が見込まれている。

製造業の来期のDIは1.3で、当期に比べ16.1ポイント上昇し、2期ぶりにプラスの水準に転じる見込みである。非製造業では▲10.2で、当期に比べ9.4ポイント上昇する見込みである。

### 3 資金繰りについて

#### (1) 当期の状況

前期と比べて資金繰りは「良くなった」と回答した企業は9.4%、「悪くなった」と回答した企業は30.9%で、資金繰りのDIは▲21.5となった。前期と比較すると4.2ポイントの上昇となり、3期連続で改善した。前年同期と比べると14.8ポイント上回っており、6期連続で前年同期を上回っている。

製造業のDI値は▲13.7で、前期と比べ7.9ポイント上昇し、前年同期を15.0ポイント上回った。非製造業のDI値は▲25.7で、前期と比べ2.2ポイント上昇し、前年同期を14.4ポイント上回った。

#### (2) 来期の状況

当期と比べて資金繰りが「良くなる」見通しの企業は7.8%、「悪くなる」見通しの企業は33.9%で、来期のDIは▲26.2と見込まれている。当期と比較すると4.7ポイントの下降と見込まれている。

製造業の来期のDIは▲23.9で、当期に比べ10.2ポイント下降する見込みである。非製造業では▲27.4で、当期に比べ1.7ポイント下降する見込みである。

### 4 採算について

#### (1) 当期の状況

前期と比べて採算は「良くなった」と回答した企業は10.7%、「悪くなった」と回答した企業は41.4%で、採算のDIは▲30.6となった。前期と比較すると1.2ポイントの上昇となり、4期連続で改善した。前年同期と比べると15.4ポイント上回っており、7期連続で前年同期を上回った。

製造業のDI値は▲27.3で、前期と比べ3.8ポイント下降したが、前年同期と比べると13.0ポイント上回った。非製造業のDI値は▲32.4で、前期と比べ4.0ポイント上昇し、前年同期と比べると16.6ポイント上回った。

#### (2) 来期の状況

当期と比べて採算が「良くなる」見通しの企業は13.7%、「悪くなる」見通しの企業は32.7%で、来期のDIは▲18.9と見込まれている。当期と比較すると11.7ポイントの上昇となり、5期連続での改善が見込まれている。

製造業の来期のDIは▲13.3で、当期に比べ14.0ポイント上昇する見込みである。非製造業では▲22.0で、当期に比べ10.4ポイント上昇する見込みである。

## 5 設備投資の動向について

### (1) 当期の状況

当期に設備投資を実施した企業の割合は27.2%で、前期に比べ0.4ポイント下降し、2期連続で実施率が前期を下回ったが、4期連続で25%を超えている。

製造業では設備投資を実施した企業の割合は26.0%となり、前期と比べて0.8ポイントの下降であるが、4期連続で実施率が25%を上回った。非製造業では設備投資を実施した企業の割合は27.9%となり、前期と比べて0.2ポイントの下降であるが、4期連続で実施率が25%を上回った。

### (2) 来期の状況

来期に設備投資の実施を予定している企業の割合は23.9%である。

製造業で26.9%、非製造業で22.3%となっている。

## ※ DI(景気動向指数: Diffusion Index)とは、

「好況」と回答した企業割合から「不況」と回答した企業割合を差し引いた指数で、企業の景況判断等の強弱感の判断に使用する指数のこと

〈例〉「好況」4.5% 「普通」32.5% 「不況」63.0%

$$DI = 4.5\% - 63.0\% = \blacktriangle 58.5$$

## Ⅱ ヒアリング調査結果の概況

### 1 製造業

依然として厳しい状況にあるが、多くの業種で受注量が上向いており、売上げが増加傾向にあることから、前回調査時に比べ景況感に明るさがみられる。

受注単価は、「下がった」とする企業と「ほとんど変わらない」とする企業に二分されたが、「ほとんど変わらない」とする企業でも「値下げ要請は絶えることがない」としている。

採算については、売上げが増加していることから、「良くなった」とする企業がみられるものの、原材料価格の上昇から、「売上げの伸びほど改善していない」とする企業が多い。

設備投資については、業況が上向いている企業で、「工作機械の購入」や「生産設備の更新」等を実施している企業が多い。

・ 半導体製造装置関連は、デジタル家電向けを中心とした需要が増加傾向にあり、前回調査時に続いて前年同期を上回る水準で推移している。

・ 建設機械関連は、インフラ整備が進む中国や北米への輸出向けを中心に堅調な動きが続いており、特に中国では、「信頼性の高さから日本製の人気が高い」と話している。

・ トラック関連では、「ディーゼル車の排ガス規制に伴う買い換え需要は12月をピークに落ち着いてきている」との声が多いものの、「インフラ整備が進んでいる中国向けのトラック需要は続いており、輸出向けの部品需要も増えている」とする企業もみられる。

### 2 小売業

総じて個人消費の回復感は乏しく、厳しい状況に大きな変化はみられない。百貨店やディスカウントスーパーの業況は、「ほぼ横ばい」の推移となっている。商店街では、個人商店を中心に売上げが減少している店舗が多い。

・ 百貨店では、『BSE(牛海綿状脳症)』や『高病原性鳥インフルエンザ』の影響から、「牛肉・鶏肉、卵は買い控えの傾向がみられる」とする店舗がみられた。

・ ディスカウントスーパーでは、デジタル家電や関連商品が人気を集めており、DVDビデオやソフト等の関連商品、デジタルカメラが売上げを伸ばしている。

### 3 サービス業(ソフトウェア業)

業況は「まだら模様」の状況ながら、上向き動きが続いている。

売上げは、「官公庁」を取引の中心とする企業では減少傾向とする一方、「民間企業」との取引が中心の企業では増加傾向にある企業が多い。

## Ⅲ 調査要領

### 1 調査方法及び調査対象

#### (1) アンケート調査

- ・ 製造業 : 1,000企業中、回答数 678企業(回答率67.8%)
- ・ 非製造業 : 2,000企業中、回答数1,260企業(回答率63.0%)
- 計 : 3,000企業中、回答数1,938企業(回答率64.6%)

## (2)ヒアリング調査

- ・ 製造業 : 24企業・組合
- ・ 非製造業 : 8企業・商店街
- ・ サービス業 : 3企業
- 計 : 35企業等

## 2 調査対象期間

平成16年1月～3月 (調査時期:平成16年3月)

## 3 実施機関

埼玉県労働商工部産業企画課及び埼玉県労働商工センター